

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会
第2回 議事録(要旨)

開催日：平成27年2月5日(木)

参加者一覧

出席者	安藤 辰夫 大塚 之稔 西條 好迪	(一財)自然学総合研究所技術顧問 日本野鳥の会岐阜代表 (一財)自然学総合研究所所長
事務局	小川 泉 八代 貴守 堀部 陽生 西岡 幸宏 阿部 晋也 他2名	恵那土木事務所 副所長 恵那土木事務所道路建設課濃飛横断自動車道建設係長 恵那土木事務所道路建設課濃飛横断自動車道建設係技師 岐阜県都市政策課技術課長補佐 岐阜県道路建設課企画係技術主査 大日本コンサルタント株式会社

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会 議事録(要旨)

議題	発言者	番号	意見の主旨	当日の回答
1. H27.1月の現地概査結果について				
	検討会委員	1	岩屋堂地区のオオタカが営巣した樹林には、オオタカが営巣可能な環境が複数存在していること、また周辺地域に生息するオオタカ同士の主要な行動圏が重なりあっていないことから、次年度以降、岩屋堂地区のオオタカが同じ行動圏の中で営巣場所を移る可能性がある。	今後の調査で、営巣場所の把握に努める。
	検討会委員	2	営巣環境の適否について、△、×と定性評価した樹林の中にも、オオタカが営巣可能な樹木は存在する可能性がある。今回の評価結果に問題はないが、植生状況から見た営巣環境にも留意した上で、その適否について、定量的に評価できると良い。	今後、植生状況から見た営巣環境の調査も予定しており、データの定量的取得に努める。
	検討会委員	3	近隣の他の古巣の諸元や、古巣周辺の植生のデータについて、他事業における調査データを活用することは可能か。そのデータを営巣環境適地の根拠として、△、×と判断した樹林に対する補足的かつ定量的な植生調査が実施できると良い。	情報提供を依頼することとし、今後の調査方法については検討する。
2. 今後の調査について				
	検討会委員	4	営巣環境としての植生の状況を調査する際は、各層の植物群の被覆度合を調べると良い。	今後予定している、植生状況から見た営巣環境の調査に反映させる。
	検討会委員	5	岩屋堂観音がある樹林などでは、フクロウの観察記録があることから、繁殖しそうな樹洞があるかもしれない。現地調査時に確認すると良い。	現地調査時に確認を行う。
	検討会委員	6	現地調査の時期は、猛禽類保護の進め方に記載されている、「オオタカの生活サイクルにおける敏感度」の指標を参考に設定すると良い。	現地調査時期の設定において、参考とする。
	検討会委員	7	古巣の諸元や、古巣周辺の植生の状況を確認するため、オオタカの繁殖状況がある程度把握できた段階で、検討会として現地調査を行いたい。 現地調査の時期は、H27.2月～3月の営巣場所調査の結果を踏まえ、営巣地が概ね判明した後の、4月中旬ぐらいが良い。	今後、現地調査を計画する。
3. 今後の中長期スケジュールについて				
	検討会委員	8	今後のスケジュール(事業計画、オオタカの調査、検討会)について、了解した。オオタカの調査・保全対策については、工事着手の前年に具体的な保全対策の検討や対策を実施し、その2年前から前年にかけて行動圏解析等の詳細調査を行うスケジュールで問題ないとする。	—
4. 今後の検討会の実施時期について				
	事務局	—	本日の議事要旨及び、ご指摘を踏まえた今後の対応について、後日、修正案を確認させていただく。 現地調査時期を含め、今後の予定については、後日各委員に案内する。	—

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会

第2回検討会 総括

- 予備調査や当該地域を対象とした他調査の結果から、本ルート計画に近接する森林には、オオタカが営巣可能な環境が存在すると言える。当該地域に生息するオオタカの行動圏などを含め総合的に判断すると、本ルート計画に近接する位置に営巣していた個体が、同じ行動圏の中で営巣場所を移る可能性も考えられる。

- 保全対策の検討には、当該地域に生息する複数の個体の行動圏も含めて、植生状況を中心とした詳細な環境調査を実施する必要がある。

- 工事着手の前年に保全対策の検討及び対策の実施、その2年前から前年にかけて行動圏解析等の詳細調査を行うスケジュールに問題はないのではないか。

以上